

実測三昧概要

この本は私が 3 年間アルバイトをした京都市東山区は祇園地区のとある割烹料理屋の実測図をまとめたものです。

兵庫県神戸市で育ち、建築設計の道を志し、京都工芸繊維大学に入学。4 年次の卒業設計が終わった後に、アルバイト先の女将さんからお店の照明の見取り図を作ってくれという依頼を受けたのですが、そのお店の現況の平面図がなく、建築学科であった事と、スケッチを描く事が好きであった事から、一から空間実測をして平面図をおこすに至りました。

始めた当初は実測の仕方など知る由もなく、浦 一也さんや宮脇 檀さんの本など、手描きスケッチが載っている本をしらみ潰しに探し、片端から読みました。そして、まっすぐな線が描けない事態に、まずは線に慣れるため、空間内をスケッチする事から始めました。徐々に線を引く事に慣れてからは、まず玄関周りから描き、測ってみる事にしましたが、スケールを測っていると、客席、板場の什器や器具の配置で意外と無駄になっているスペースがある事に気付き、じっとしてられない性分からかそのままレイアウトを変えてみたりもしました。

この頃から、ただうまい線を描いて、平面上におさめるという事だけでなく、照明の配置がどうなっているか、どの部分にどんな素材を使っているのか…などと今まであまり意識の及ばなかった部分に目が移るようになり、使い手に近い部分のデザインがしたいと強く感じ、スペースデザインの道へと歩む事を決意しました。さらにこの後、実測にはまってしまい、空間の寸法を測るのが趣味になってしまいました。そして、その姉妹店であるお店の実測も自分から頼んで、お邪魔させていただく運びとなりました。

しかし、アルバイト先を実測する。たったこれだけの事がここまで私の人生を変えるとは、最初は思いもよりませんでした。ただ、アルバイト先から頼まれて、その時期に暇を持て余していて、建築学科で、描く事が好きで、はまると懲りずにしてしまうくらいがあって…そんな幾つかの希有な出来事が重な

ってこの本はできました。

そして、私はこの実測を通じて3つの事を学びました。

一つ目は「スケール感」です。3年という月日を過ごした空間を密に測り、数値化する事によって、普段使いやすい、または使いにくい箇所を寸法的な目線から認識し、各寸法の持つ意味を考えるようになりました。

二つ目は「身近なものへの興味」です。アルバイトをしていた時代に厳しく指導されたかいてもあって、料理、酒、器、生け花など一通りの知識はありましたが、この実測で照明や素材に興味を持てた事をきっかけに、この素材にどんな什器が見栄えがいいか、料理はどういう照明に照らされたら美味しく映るか…それら単体ではなく、相互にどのように関係付けられるかという着眼点を身につけました。

最後は「人とのつながり」です。この実測が終わった瞬間に、何か形に残るものを作ろうと思い、個人的に本を作る事を思いつきました。そして、今までお世話になった方々に渡していたところ、なかなか珍しい事をしているという事で、知り合いを通じて反響を頂いたり、新しいつながりができました。しかし、ものを作り、造って、創る事が必要であり責務である将来のために、自分の原点を確かめ、慢心してしまわないようにするためにも、この本はあるべきなのです。

この本は私の人生のマスターピースになればと思いますし、これをきっかけに、将来なにか自分の職能で人の役に立つ事ができたならこの上ない幸せだと感じております。最後に、自分勝手に伺っては、邪魔をする私の暴挙に付き合ってくれた「祇をん 八咫」と「麩屋町三条」の皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。どうもありがとうございました。